

平成 16 年度

森林・林業・木材産業における科学技術等関係主要事項（林野庁）

（ 1 ）温暖化対策

森林吸収源計測・活用体制整備強化事業（拡充）

882,400 千円（607,400 千円）

1990 年以降に行われた森林経営等の箇所の効果的把握手法の開発、1989 年末における森林現況図の作成等を行うとともに、森林土壌中の炭素量把握を始めとした森林生態系全体の吸収量の算定に必要なデータの把握等を実施する。

（ 2 ）木質系バイオマス及び木材の利用推進

木質資源機能高度活用技術の研究開発事業（新規）

135,000 千円（0 千円）

中山間地域の活性化及び木材需要の拡大を推進するため、木質資源のガス化による水素等の生成技術や木質資源の炭素化によるグラファイト等の生成技術を開発する。

木質資源循環利用技術開発事業

134,875 千円（146,880 千円）

木材成分のリグニン及びセルロース系成分を活用したりサイクルが可能な木質プラスチックや生分解性プラスチック原料等としての利用技術を開発する。

環境低負荷型新機能性木質系材料等の開発（拡充）（農林水産技術会議計上）

36,694 千円（13,680 千円）

有害物質を分解・無害化する酸化チタンと木粉及びプラスチックを複合化させた環境浄化用材料等や、ボードと化粧シートとの分離・剥離が容易になるリサイクル対応型接着剤を開発する。

木材利用革新的技術開発促進事業

33,966 千円（37,740 千円）

民間企業等に対する公募方式により、木質廃棄物の抑制・再利用の促進及び木材の品質向上、環境への負荷の少ない木材加工等の木材利用促進に関する革新的な新技術・新製品の開発を実施。

環境にやさしい木材保存技術の開発（農林水産技術会議計上）

23,830 千円（23,830 千円）

環境への負荷が少なく、野外の厳しい条件下で木材を長期に使用するために必要な木材保存処理技術、その適正管理に必要な技術等を開発する。

(3) 花粉症対策

花粉生産予測情報調査事業

32,773千円(36,414千円)

花粉生産量の多いスギ林を調査して、花粉生産量が多い要因の解明等を行う。

これまで開発してきた雄花の着花状況判定による花粉生産量予測技術を全国的に適用できる技術として確立させ普及を図る。

花粉の少ない品種選定に関する調査

7,252千円(8,058千円)

花粉の少ない品種を選定するために、ヒノキについても雄花着花量の多少について調査を行い雄花着花性を解明。

(4) 林業機械

森林環境保全先端技術導入機械開発事業

91,269千円(91,269千円)

長期育成循環施業等の非皆伐施業に対応した森林環境保全に資する高性能林業機械である急傾斜地非皆伐作業用伐採搬出機械、アタアッチメント式汎用作業機械等の開発を行う。

(5) 独立行政法人

独立行政法人森林総合研究所運営費交付金

9,088,621千円(8,797,246千円)

独立行政法人森林総合研究所施設整備費補助金

167,597千円(167,597千円)

独立行政法人林木育種センター運営費交付金

2,072,640千円(2,014,309千円)

独立行政法人林木育種センター施設整備費補助金

132,008千円(132,008千円)